

平成 30(2018)年度 事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

1. 平成 30 年度の重点課題

- 1) チタンの適用拡大・需要拡大のための活動の活発化
- 2) チタンの研究開発・人材育成のための産学連携の推進
- 3) チタンの国際標準化・規格整備の推進
- 4) 産業事故防止のための取組み強化
- 5) 会員サービスを充実させ、より魅力ある協会にし、また新規会員の獲得に努める

2. 各委員会の活動状況

2.1 TKK (チタン協会開発会議幹事会)

- ・ 協会の技術関連活動情報の共有の場として 3 か月毎に開催 (6 月、9 月、12 月、2 月)。
- ・ 「社会貢献型チタン需要開拓助成事業」の採択審査を実施 (2 月)。

2.2 表彰審査委員会

- ・ 9 月に開催し、平成 30 年度協会表彰者 (10 名+2 社) を選考した。

2.3 開発会議

- ・ 啓発活動の強化 今年度も中学校理科副読本 (1 万部) を全国の 39 中学校へ配布した。

(1) 海淡・環境部会

エネルギー分野に関する情報収集とチタン適用可能性の調査を継続。

(2) 船舶・建設・海洋部会

① 船舶 WG

- ・ (国研)海上技術安全研究所との連携・支援 (4 月の施設一般公開への協力等)
- ・ 船舶業界への PR 活動
- ・ 展示会への船用チタン部品の出展
 - 「Sea Japan 2018」(4 月)、「第 2 回海と産業革新コンベンション」(うみコン) (2 月)
- ・ (一財)舟艇協会との交流、情報交換
- ・ マーケットリサーチ活動

(3) 医療部会

- ・ 外部機関との連携（阪大産学医工連携推進検討会・バイオマテリアル学会との連携）
- ・ 需要拡大のための施策として、医療用基礎データを取り纏めて、「医療用チタンガイドブック」を発刊し（4月、200部）、関係機関・大学等へ配布した。今後も医療機器へのチタン採用を促進すべく有効活用していく。
- ・ 医療機器展示会 MEDTEC（4月）、高機能金属展（関西5月、東京12月）への医療用チタン部品を出展

(4) 賛助会員部会

- ・ WGによる市場開拓活動
- ・ 啓発活動「市場開発・製品開発スタッフ養成講座」の開催（尼崎6月、東京7月）
- ・ 賛助会員同士の交流の場づくり（東西で年4回の総会研修会時に交流会を開催）

① ファスナーWG

- ・ 高強度チタン合金製ファスナーの規格化のための活動推進（試験、データ収集を実施）。
- ・ 日本ねじ研究協会へ規格化の働きかけ、同協会誌へのチタン解説を連載（4回）
- ・ 展示会への出展・PR：軽量化技術展 N プラス（9月）、高機能金属展（前述）

② 福祉・医療WG

- ・ チタン製ペット用品共同開発（トリマー用はさみ・車椅子の試作と評価、陽極酸化抗菌評価）
- ・ 義肢装具へのチタン適用活動（日本義装具士協会ヒアリング）
- ・ パラリンピック用アイススレッジの開発検討

③ 西日本支部

- ・ 西日本地区の賛助会員の交流を活発にし、企業間の連携を図り、チタンの需要開拓、PR、一層の用途拡大に努めた
- ・ 西日本支部総会「創立20周年記念大会」を開催（9月19日尼崎商工会議所100名）
講演「チタンの歴史と今後の展望」：①スポンジチタン（大チタ）、②展伸材（新日鐵住金）
「20年を振り返って」：歴代支部長
- ・ スタッフ養成講座の支援（6月尼崎）
- ・ 情報の収集・発信、チタンのPR活動
- ・ 新規需要開拓テーマの探索

2.4 業務委員会

- ・ 運営委員会事務局活動、総会・理事会審議事項の検討
- ・ 会員異動に係る審査・検討
- ・ 関係官庁や関係団体との連携、政府への意見具申（電力多消費産業団体との共同活動）
* 日本鉄鋼連盟等10団体で政府・衆参議員キーマン14名へFIT制度見直しを陳情
- ・ 国際貿易・通商課題に関する活動：3月4日、米国商務省が通商拡大232条に基づき輸入スポ

ンジが安全保障上の脅威になっている可能性があるとして調査開始

⇒経産省・スポンジ2社・協会各々パブリックコメント対応（論調は連携、19.4.22 締切）

- ・ 「チタンの世界」の改訂編集：カタログ改訂編集委員会で2019年度発刊を目指して活動

2.5 編集委員会

- ・ 需要拡大に寄与する技術情報誌「チタン誌」の継続発行（年4回）
- ・ 各分科会、WG活動成果のタイムリーな紹介を逐次実施

2.6 環境委員会

- ・ 安全分科会の年2回開催（スポンジ2社と安全衛生に関する取組みに関する情報交換・安全巡視、安全統計の集計と配布）
- ・ 情報交換（関係省庁・関係団体の動き確認、各社の事故・災害防止情報）
- ・ 放射線規制対応（日本酸化チタン工業会との情報交換、経産省金属課への働きかけ検討）

2.7 技術委員会

- ・ チタン規格の整備充実化、国際標準化推進
- ・ チタン関連技術データベースの整備充実化（溶接トラブル事例集発刊等）
- ・ 第25回チタン講習会の開催（10月、浜松市。希望者でヤマハ発動機・榛葉鉄工を工場見学）
- ・ 第13回学生と教師のための工場見学会開催（8月、大チタニ崎）

(1) 材料分科会

- ・ JISチタン板規格の改正検討
- ・ ISO28401「チタン—用語」規格の定期見直し対応
- ・ ISOチタン展伸材3規格、分類1規格の制定に向けた原案提案
- ・ ASTM改定バロットに随時対応

(2) 耐食性分科会

- ・ チタンの耐食性課題への対応

(3) 非破壊検査分科会

- ・ JIS規格（ECT、UST）見直し
- ・ 放射線透過試験用透過度計の補充製作検討

(4) 分析分科会

- ・ JIS発光分光分析方法規格の改正検討
- ・ ISO炭素定量法、蛍光X線分析法の規格制定に向けた原案提案

(5) 溶接分科会

- ・ (国研)産業技術総合研究所との共同研究（鋼・チタンの異材レーザー溶接）

- ・ チタン溶接トラブル事例集の発刊（2019年4月）と発刊記念講習会開催準備（2019年6月開催予定）
- ・ チタン溶接技術の向上・普及活動（チタン溶接シールド治具の製作・色見本製作・頒布）
- ・ AWS（米国溶接協会）及び日本溶接協会への協力

(6) 規格調整幹事会

- ・ ASTM 委員が欠員状態、後任選出が課題。B10委員会出席、投票ができない状況。
- ・ 材料委員会への出席、ASTM材料規格に関する国内意見の集約

2.8 ISO/TC79/SC11 国内対策委員会

- ・ 国際会議の開催・出席（ISO/TC79/SC11主催、1月パリ。ISO/TC79出席、10月リスボン。）
- ・ 国際規格のNP提案（6件）をしたが、非承認（6件）となった

2.9 産学連携委員会

- ・ 学側若手研究者と産業側との交流会「第6回産学若手交流会」を開催
11月1～2日、物質・材料研究機構（つくば市）、65名が参加（学29・産34・事務局2）
学側9名、産側4名が研究発表し、活発な質疑応答
- ・ 日本機械学会 hcp 分科会への参加
- ・ 軽金属学会との連携
- ・ 「チタン研究助成制度」の一般会計による執行（1月選考完了、4月通知・公表）

3. 事務局活動

3.1 収益力向上活動

会員増強、総会・講習会への動員、協会HP有料バナー（現状5社）、講演会への動員。

3.2 協会カタログ「チタンの世界」の改訂編集

構成見直し、写真・データ等の差し替え

業務委員会下のカタログ改訂編集委員会で改訂作業中 ⇒2019年度発刊目標

3.3 放射線規制問題

日本酸化チタン工業会からの情報収集、経産省金属課への働きかけ

3.4 チタン鉱石の安定調達に向けての情報交換（支援）

当初は事務局同席としたが、コンプライアンス問題クリアして当事者（2社）間で実施。

以上